

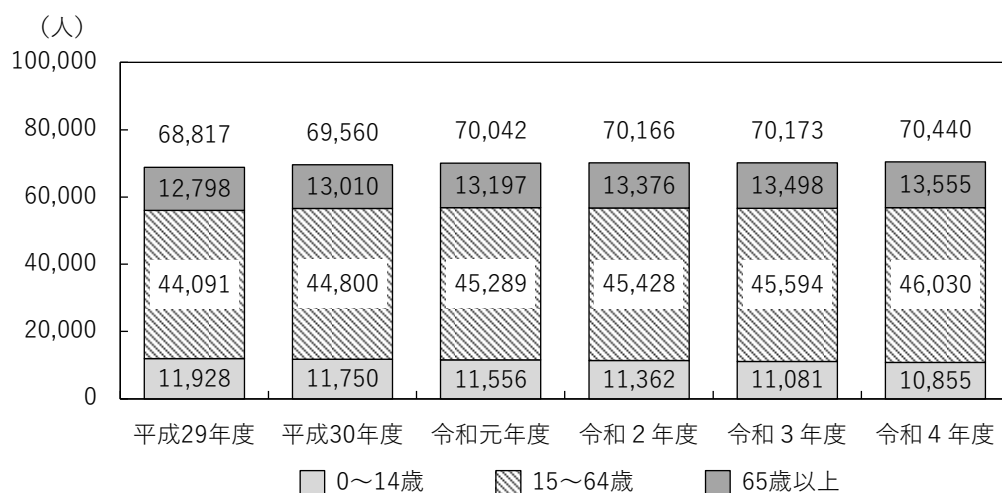
第2章 障がいのある人を取り巻く状況



1. 栗東市の人口の推移

本市の人口は、令和5年3月31日現在で70,440人となっており、年々増加しています。年齢別でみると、15歳未満は減少しており、15～64歳、65歳以上は年々増加しています。

◆年齢3区分人口の推移



資料：住民基本台帳（各年度末現在）

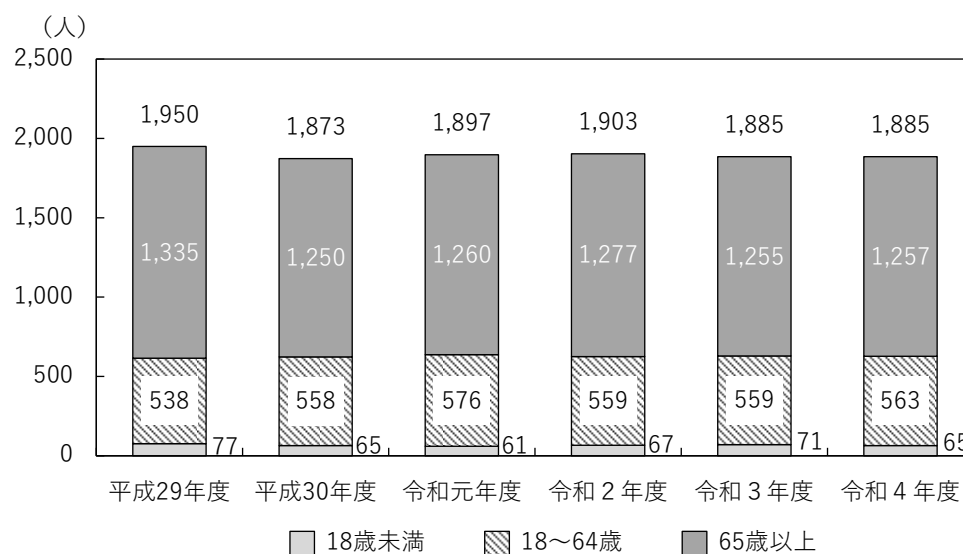
2. 障がいのある人の推移

(1) 身体障がいのある人

身体障害者手帳の交付数の推移をみると、令和4年度末現在で1,885人となっており、平成29年度以降、増減を繰り返しながら推移しています。

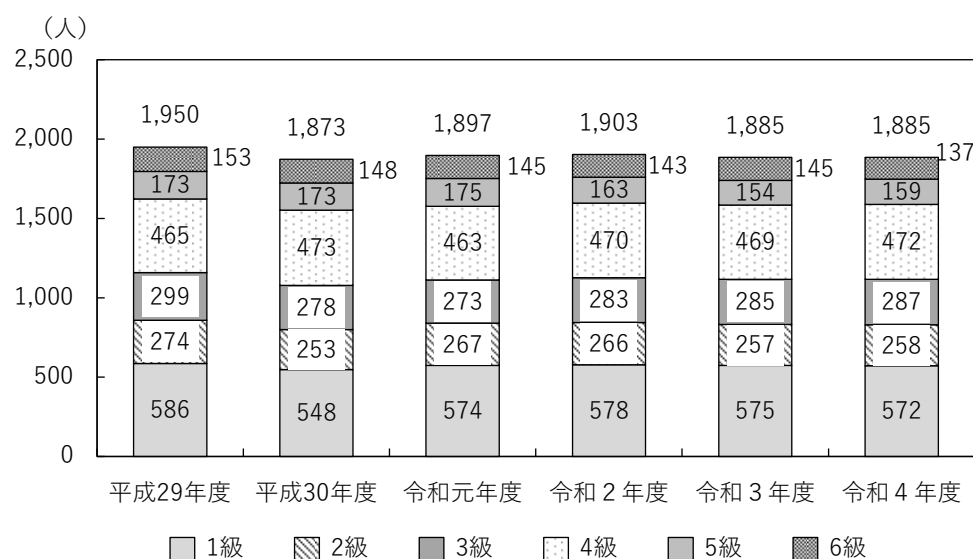
年齢別でみると、どの年齢層も増減を繰り返しています。障がい等級別でみると、いずれの年度においても1級が多くなっています。

◆年齢別身体障害者手帳交付数の推移



資料：障がい福祉課（各年度末現在）

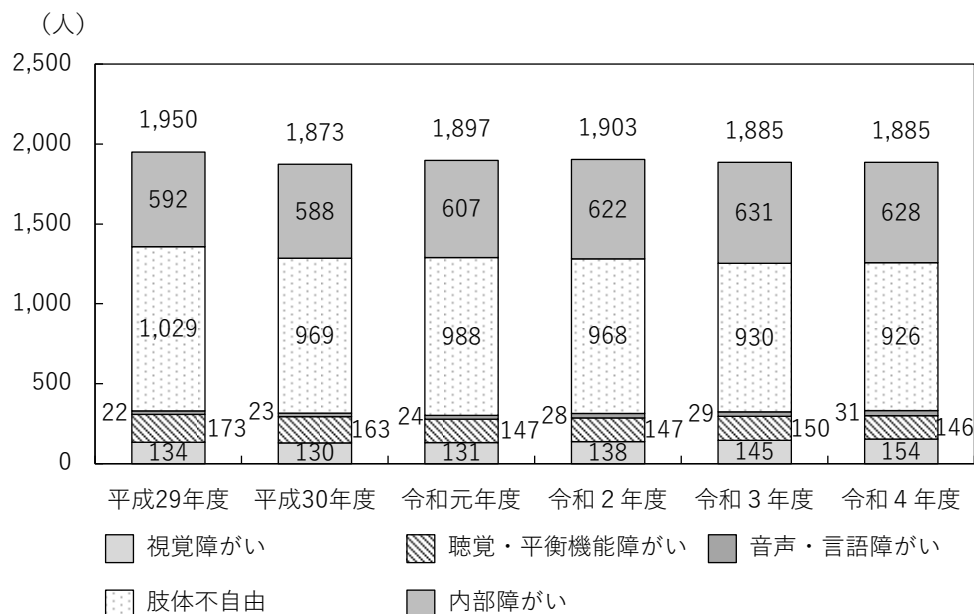
◆障がい等級別身体障害者手帳交付数の推移



資料：障がい福祉課（各年度末現在）

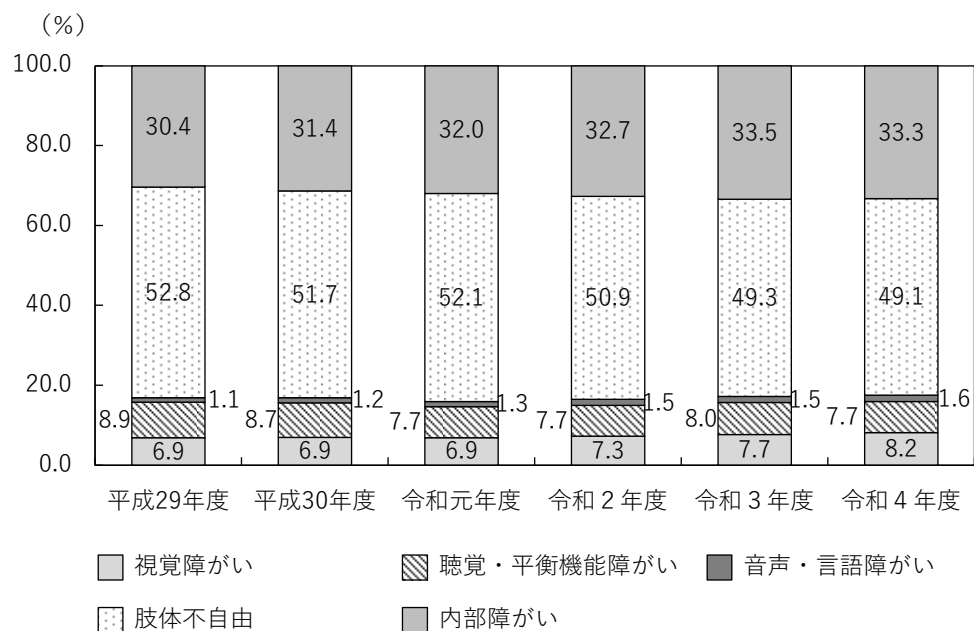
障がい種別でみると、交付数は減少傾向であるもののすべての年度において肢体不自由が占める割合が高く、約 50%を占めています。

◆障がい種別身体障害者手帳交付数の推移



資料:障がい福祉課(各年度末現在)

◆障がい種別身体障害者手帳交付数の内訳の推移



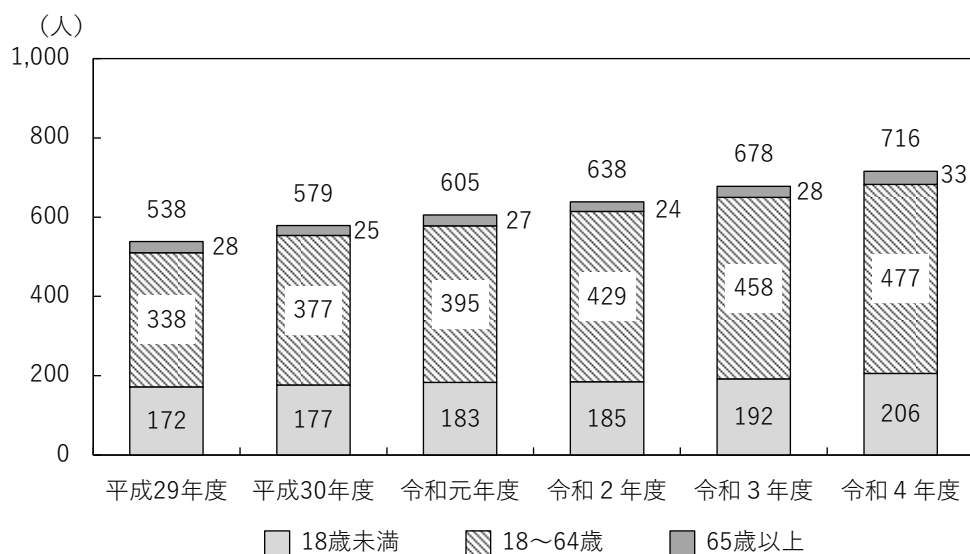
資料:障がい福祉課(各年度末現在)

(2)知的障がいのある人

療育手帳交付数の推移をみると、平成 29 年度以降増加傾向が続いており、令和 4 年度末現在で 716 人となっています。

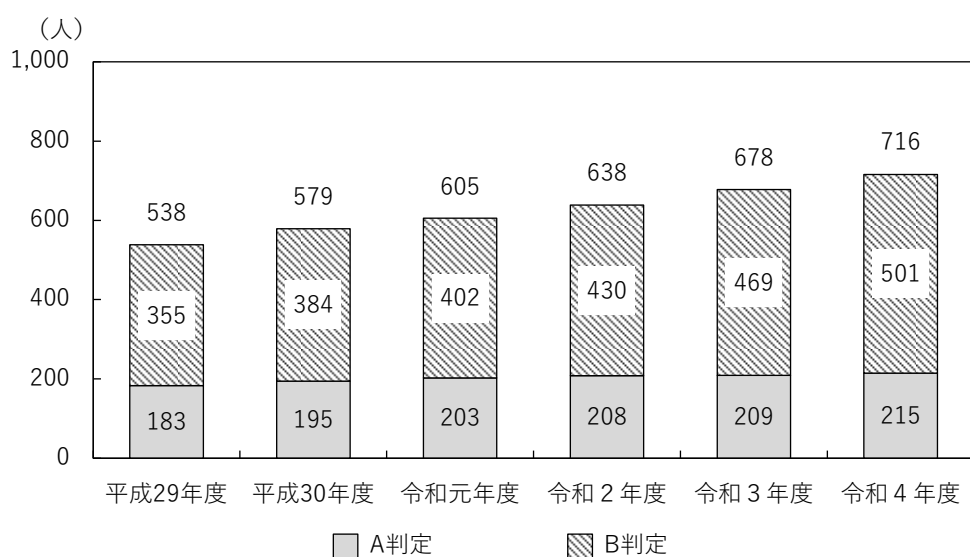
年齢別でみると、どの年齢層も増加傾向にあります。平成 29 年度から令和 4 年度の変化では、18～64 歳の増加率が最も多く、令和 4 年度末現在で 477 人と、平成 29 年度の 41.1% 増となっています。判定別でみると、B 判定の増加率が最も高く、令和 4 年度末現在で 501 人と、平成 29 年度の 41.1% 増となっています。

◆年齢別療育手帳交付数の推移



資料：障がい福祉課(各年度末現在)

◆判定別療育手帳交付数の推移



資料：障がい福祉課(各年度末現在)

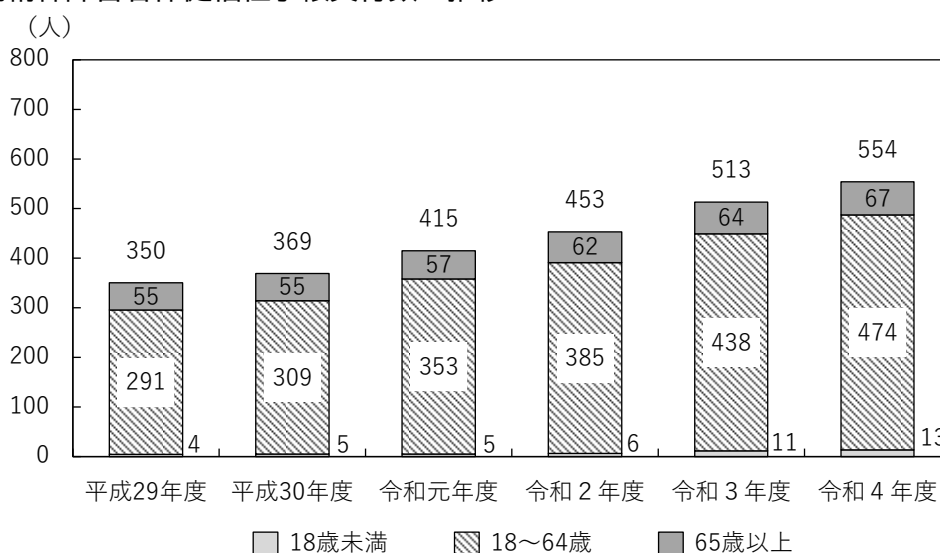
(3)精神障がいのある人

精神障害者保健福祉手帳交付数の推移をみると、平成 29 年度から令和 4 年度にかけて全体的に増加傾向にあり、令和 4 年度末現在で 554 人となっています。

年齢別でみると、どの年齢層も増加傾向にあります。平成 29 年度から令和 4 年度の変化では、18 歳未満の増加率が最も多く、令和 4 年度末現在で 13 人と、平成 29 年度の 225.0% 増となっています。18～64 歳も増加しており、令和 4 年度末現在で 474 人と、平成 29 年度の 62.9% 増となっています。

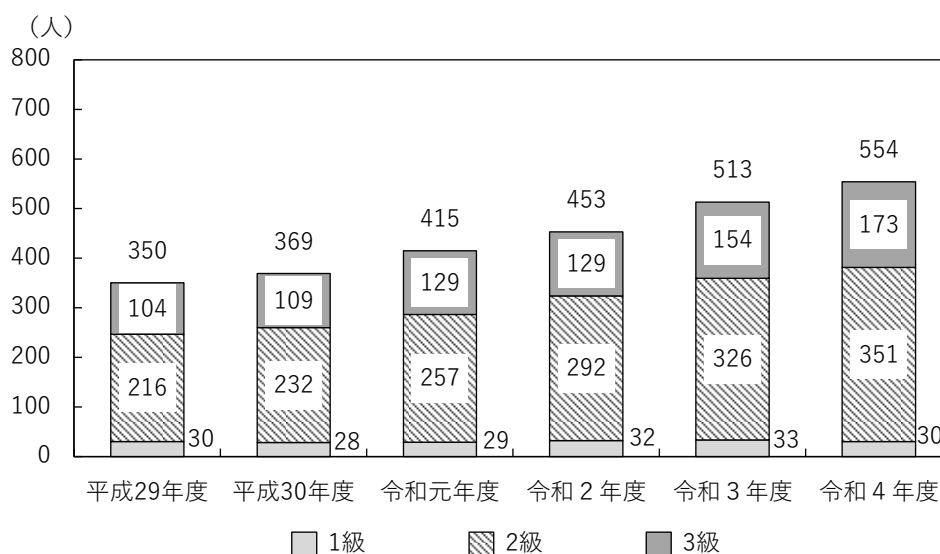
また、等級別でみると、3 級の増加率が最も高く、令和 4 年度末現在で 173 人と、平成 29 年度の 66.3% 増、次いで 2 級が平成 29 年度の 62.5% 増となっています。

◆年齢別精神障害者保健福祉手帳交付数の推移



資料：障がい福祉課（各年度末現在）

◆障がい等級別精神障害者保健福祉手帳交付数の推移



資料：障がい福祉課（各年度末現在）

3. 障がいのある人の生活支援の状況

(1) 公的サービスの現状

① 公的サービスの現状

(ア) 補装具の交付・修理

補装具の交付・修理は令和2年度から令和3年度にかけて減少したものの令和4年度にかけて増加に転じ、令和4年度末の利用者数は171人となっています。

◆補装具の交付・修理の利用推移

(単位：人)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用者延べ人数	152	169	145	171

※各年度3月31日現在

(イ) 心身障がい児・者紙おむつ助成制度

心身障がい児・者紙おむつ助成制度は緩やかに増加しており、対象人数は令和4年度で51人となっています。

◆心身障がい児・者紙おむつ助成制度

(単位：人)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
対象人数	45	47	48	51

※各年度3月31日現在

(ウ) 在宅重度障がい者住宅改造費助成制度

在宅重度障がい者住宅改造費助成制度は、利用件数が令和元年度は4件で、以降は増減を繰り返しながら推移し、令和4年度の利用はありませんでした。

◆在宅重度障がい者住宅改造費助成制度

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用件数（件）	4	2	3	0
助成額（千円）	1,029	684	1,050	0

※各年度3月31日現在

②保健・医療サービス

(ア)自立支援医療(育成医療)の給付

自立支援医療（育成医療）の受給者数は減少傾向で推移しており、令和元年度で 27 人、令和 4 年度では 20 人となっています。

◆自立支援医療（育成医療）の給付

（単位：人）

区分	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
肢体不自由	7	6	7	5
視覚障がい	2	3	1	1
聴覚・平衡機能障がい	0	0	0	0
音声・言語機能障がい	16	13	13	14
じん臓障がい	0	0	0	0
その他内臓障がい	2	0	0	0
計	27	22	21	20

※各年度 3 月 31 日現在

(イ)自立支援医療(更生医療)の給付

自立支援医療（更生医療）の受給者数は令和元年度から増減を繰り返しながら推移しており、令和元年度で 170 人、令和 4 年度では 167 人となっています。

◆自立支援医療（更生医療）の給付

（単位：人）

区分	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
肢体不自由	25	19	12	13
視覚障がい	0	0	0	0
聴覚・平衡機能障がい	0	0	0	0
音声・言語機能障がい	2	2	2	2
じん臓障がい	119	129	124	126
その他内臓障がい	24	33	26	26
計	170	183	164	167

※各年度 3 月 31 日現在

(ウ)自立支援医療(精神通院医療)の給付

自立支援医療（精神通院医療）の受給者数は令和元年度から増減を繰り返しながら推移しており、令和元年度で 949 人、令和 4 年度では 1,158 人となっています。

◆自立支援医療（精神通院医療）の給付

（単位：人）

区分	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
対象人数	949	1,124	1,067	1,158

※各年度 3 月 31 日現在

(工)重度心身障がい老人等医療費の助成

重度心身障がい老人等医療費の助成実績は令和元年度から増減を繰り返しながら推移しており、受給者数は令和元年度で 472 人、令和 4 年度で 471 人となっています。

◆重度心身障がい老人等医療費の助成

区分	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
受給者数（人）	472	524	474	471
年間受診件数（件）	13,685	12,451	12,767	13,022
1 人当たり助成額（円）	88,655	75,015	85,424	79,348

※各年度 3 月 31 日現在

(オ)心身障がい者（児）医療費の助成

心身障がい者（児）医療費の助成実績は、受給者数が令和 4 年度で 599 人となっています。

◆心身障がい者（児）医療費の助成

区分	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
受給者数（人）	591	557	595	599
年間受診件数（件）	15,041	14,319	14,668	15,116
1 人当たり助成額（円）	177,602	164,720	143,531	140,905

※各年度 3 月 31 日現在

(カ)福祉医療費の助成

福祉医療費の助成実績は年々増加しており、受給者数が令和 4 年度で 12,076 人となっています。

◆福祉医療費の助成

区分	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
受給者数（人）	8,445	8,640	10,173	12,076
年間受診件数（件）	150,922	140,745	156,974	169,346
1 人当たり助成額（円）	45,107	33,387	37,105	32,408

※各年度 3 月 31 日現在

※子ども入院医療助成を含む

※精神障がい者精神科通院医療費助成は含まない

4. 第6期計画の障がい福祉サービスの実績

(1)訪問系サービス

訪問系サービスは、令和4年度と令和3年度で比較すると月平均利用者数が11.4%増、サービス利用時間が8.4%増となっています。利用者は増加している一方で、実績値は計画値を下回っています。サービス利用時間も増加しており、実績値が計画値を上回る結果となっています。

◆訪問系サービスの計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
居宅介護・重度訪問介護・ 同行援護・行動援護・ 重度障害者等包括支援	29,280 時間	29,320 時間	31,476 時間	31,795 時間	33,794 時間	15,833 時間
	258 人 (158 人)	216 人 (123 人)	277 人 (170 人)	246 人 (137 人)	298 人 (183 人)	262 人 (144 人)

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

※年間延べ利用時間、各年度末日における支給決定者数、()内は月平均利用者数

資料：障がい福祉課

(2)日中活動系サービス

生活介護は、利用者数、サービス量ともに伸びており、サービス利用日数では実績値が計画値を上回って推移しています。

自立訓練の「機能訓練」については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用は計画値に対して少なくなっています。令和4年度でみると、実績値は計画値に対して約10%未達となっています。「生活訓練」の利用も減少しており、計画値を大きく下回っています。

就労移行支援は、令和3年度のサービス利用日数では計画値に対して66.6%でしたが、令和4年度では128.0%と大きく増加しています。

就労継続支援の「A型」については、利用日数が増加しており、令和4年度では127.9%と増加しています。一方「B型」については、「A型」と同様に利用日数が増加しているものの、令和4年度の利用日数は計画値に対して96.0%となっており、概ね計画値に近い実績値となっています。

就労定着支援については、令和3年度は7人、令和4年度では6人の利用となっています。

療養介護は、利用者数に大きな変動がなく、概ね計画値に近い実績値となっています。

短期入所については、令和4年度の月平均利用者数では計画値の200.0%の実績となっている一方で、サービス利用日数は計画値に対して91.8%の実績となっています。

◆日中活動系サービスの計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
生活介護	22,268 人日	23,360 人日	23,121 人日	25,062 人日	23,992 人日	13,401 人日
	1,175 人	1,250 人	1,220 人	1,355 人	1,266 人	823 人
自立訓練（機能訓練）	821 人日	77 人日	1,107 人日	116 人日	1,489 人日	93 人日
	43 人	7 人	58 人	16 人	78 人	6 人
自立訓練（生活訓練）	2,121 人日	758 人日	2,437 人日	461 人日	2,805 人日	170 人日
	121 人	53 人	139 人	42 人	160 人	14 人
就労移行支援	3,651 人日	2,431 人日	3,954 人日	5,063 人日	4,281 人日	2,088 人日
	233 人	164 人	252 人	315 人	273 人	123 人
就労継続支援（A型）	6,496 人日	8,418 人日	7,282 人日	9,314 人日	8,163 人日	5,931 人日
	339 人	444 人	380 人	490 人	426 人	308 人
就労継続支援（B型）	38,309 人日	37,581 人日	40,629 人日	39,000 人日	43,087 人日	20,256 人日
	2,229 人	2,257 人	2,364 人	2,377 人	2,507 人	1,232 人
就労定着支援	7 人	7 人	8 人	6 人	9 人	4 人
療養介護	16 人	15 人	16 人	14 人	16 人	14 人
短期入所	1,827 人日	1,255 人日	1,863 人日	1,710 人日	1,863 人日	830 人日
	128 人 (14 人)	136 人 (30 人)	131 人 (15 人)	142 人 (30 人)	131 人 (15 人)	151 人 (32 人)

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

※上段は年間延べ利用日数、下段は年間延べ利用者数。

ただし、就労定着支援については月平均利用者数、療養介護については月平均延べ利用者数、短期入所については、上段は年間延べ利用日数、下段は支給決定者数、（ ）内は月平均利用者数

※「人日」＝「月間の利用人数」×「一人一月あたりの平均利用日数（利用率を加味）」

資料：障がい福祉課

(3)施設系サービス

共同生活援助の月平均利用者数は増加しており、利用実績が計画値を下回っています。

施設入所支援の利用者数は横ばい傾向で、令和4年度の年間延べ利用者数でみると、計画値に対し実績値は91.6%となっています。

◆施設系サービスの計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
共同生活援助	449 人 (38 人)	505 人 (42 人)	507 人 (43 人)	676 人 (56 人)	531 人 (45 人)	371 人 (63 人)
施設入所支援	419 人 (35 人)	393 人 (33 人)	430 人 (36 人)	394 人 (33 人)	441 人 (37 人)	194 人 (33 人)
自立生活援助	2 人	1 人	2 人	1 人	2 人	0 人

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

※年間延べ利用者数、()内は月平均利用者数、自立生活援助については月平均利用者数

資料：障がい福祉課

(4)相談支援

計画相談支援は増加傾向で推移しており、計画値を上回る実績となっています。地域定着支援はほぼ計画値通りの実績となっています。地域移行支援は利用がありませんでした。

◆相談支援の計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
計画相談支援	335 人	381 人	339 人	404 人	343 人	419 人
地域移行支援	2 人	0 人	2 人	0 人	2 人	0 人
地域定着支援	2 人	3 人	2 人	3 人	2 人	2 人

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

※計画相談支援は年間利用実人数、その他は月平均利用者数

資料：障がい福祉課

(5)地域生活支援事業

①相談支援事業

相談支援事業については、計画通り設置し、相談に応じた相談体制を整備しています。

◆相談支援事業の計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
一般相談支援委託事業所	既存の1か所において継続して運営					
障害者虐待防止センター	1か所	1か所	1か所	1か所	1か所	1か所
地域自立支援協議会	1か所	1か所	1か所	1か所	1か所	1か所
成年後見制度利用支援事業	1か所	1か所	1か所	1か所	1か所	1か所
基幹相談支援センター	1か所	1か所	1か所	1か所	1か所	1か所

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

資料：障がい福祉課

②成年後見制度利用支援事業

成年後見制度利用支援事業については、増加傾向で推移しているものの、計画値をやや下回っており、令和4年度では51件の実績となっています。

◆成年後見制度利用支援事業の計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
成年後見制度利用支援事業	56件	46件	62件	51件	68件	36件
		5件		8件		2件

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

※上段は利用件数、下段（実績値）は、申立て支援と後見人報酬助成件数の合計

資料：障がい福祉課

③成年後見制度法人後見支援事業

法人後見の実施を予定する法人がなかったため、実施には至りませんでした。今後、法人後見の実施を予定する法人が現れた場合は、事業の実施を検討します。

◆成年後見制度法人後見支援事業の計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
成年後見制度法人後見支援事業	1件	0件	1件	0件	1件	0件

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

資料：障がい福祉課

④意思疎通支援事業

意思疎通支援事業については、令和4年度における専任手話通訳者の配置は1人となっています。

◆意思疎通支援事業の計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
手話通訳者数	2人	2人	2人	1人	2人	1人
派遣件数（委託も含む）	356件	198件	366件	208件	376件	94件

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

資料：障がい福祉課

⑤日常生活用具給付事業

日常生活用具給付事業については、介護・訓練支援用具、自立生活支援用具は増加傾向で推移しており、令和4年度の利用実績が計画値を上回っています。

在宅療養等支援用具、情報・意思疎通支援用具は増加傾向で推移しているものの、計画値を下回る実績となっています。

排泄管理支援用具、居宅生活動作補助用具は概ね横ばいで推移しており、計画値を下回る実績となっています。

重度障がい者バリアフリー化支援機器は、令和3年度の利用実績が計画値を上回っています。

◆日常生活用具給付事業の計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
①介護・訓練支援用具	4件	7件	4件	8件	4件	2件
②自立生活支援用具	6件	3件	6件	7件	6件	5件
③在宅療養等支援用具	30件	12件	32件	14件	34件	12件
④情報・意思疎通支援用具	20件	8件	27件	15件	37件	1件
⑤排泄管理支援用具	1,586件	1,573件	1,643件	1,569件	1,702件	1,079件
⑥居宅生活動作補助用具 （住宅改修費）	2件	1件	2件	1件	2件	0件
⑦重度障がい者バリアフ リー化支援機器	2件	3件	2件	2件	2件	0件

※各年度3月31日現在、年間延べ給付件数、令和5年度は9月30日現在

資料：障がい福祉課

⑥手話奉仕員養成・研修事業

手話奉仕員養成・研修事業については、令和４年度で９人の実績となっており、計画値を下回っています。

◆手話奉仕員養成・研修事業の計画と実績

区 分	令和３年度		令和４年度		令和５年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
手話奉仕員養成・研修事業	20人	14人	20人	9人	20人	18人

※各年度３月３１日現在、令和５年度は９月３０日現在

※受講者数

資料：障がい福祉課

⑦移動支援事業

移動支援事業は、コロナ禍での外出控えがあり、令和３年度は実績値が低くなっていますが、令和４年度以降は、コロナ前の水準で推移しています。

◆移動支援事業の計画と実績

区 分	令和３年度				令和４年度				令和５年度			
	計画値		実績値		計画値		実績値		計画値		実績値	
	か所	利用者	か所	利用者	か所	利用者	か所	利用者	か所	利用者	か所	利用者
	利用時間		利用時間		利用時間		利用時間		利用時間		利用時間	
移動支援事業	35か所	2,700人	36か所	2,328人	35か所	2,700人	37か所	2,532人	35か所	2,700人	40か所	1,342人
	6,659時間		5,427時間		6,659時間		6,176時間		6,659時間		3,380時間	

※各年度３月３１日現在、令和５年度は９月３０日現在

※委託事業者数、年間延べ利用者数、年間延べ利用時間数

資料：障がい福祉課

⑧地域活動支援センター

地域活動支援センターの基礎的事業については、年間延べ利用者数の実績値が計画値を上回る状況となっています。

◆地域活動支援センターの計画と実績

区 分	令和３年度				令和４年度				令和５年度			
	計画値		実績値		計画値		実績値		計画値		実績値	
	か所	利用者	か所	利用者	か所	利用者	か所	利用者	か所	利用者	か所	利用者
基礎的事業	2か所	1,073人	2か所	2,130人	2か所	1,108人	2か所	2,057人	2か所	1,143人	2か所	1,084人

※各年度３月３１日現在、令和５年度は９月３０日現在

※委託事業者数、年間延べ利用者数

※Ⅰ型とⅡ型を合計した人数

資料：障がい福祉課

⑨その他のサービス

日中一時支援事業については、利用者数が増加しており、令和4年度の実績値は173人で、計画値を上回っています。

訪問入浴サービス事業は、計画値通りの実績となっています。

上記以外のサービスについては、計画値を下回る実績となっています。

◆その他のサービスの計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
日中一時支援事業	162人	143人	164人	173人	166人	170人
訪問入浴サービス事業	6人	6人	6人	6人	6人	6人
スポーツ・レクリエーション教室等開催事業	710人	0人	710人	18人	710人	217人
点字・声の広報等発行事業	12人	9人	12人	9人	12人	7人
生活行動訓練事業	25人	0人	25人	18人	25人	15人
芸術・文化開催事業	8人	0人	8人	0人	8人	0人

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

※実利用者数。ただし、日中一時支援事業、訪問入浴サービス事業については支給決定者数

※「スポーツ・レクリエーション教室等開催事業」「生活行動訓練事業」の令和3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できなかったため0人

※「芸術・文化開催事業」については、団体が解散したことにより実施できなかった。

資料：障がい福祉課

(6)障がい児支援サービス

①障がい児通所支援サービス

児童発達支援は、計画値を上回るサービスの利用がありました。

放課後等デイサービスは計画値を下回っているものの、利用者数及び利用日数は年々増加しています。

医療型児童発達支援は、利用がありませんでした。

保育所等訪問支援は、今後も利用者数が微増で推移する見込みです。

◆障がい児通所支援サービスの計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
児童発達支援	4,137 人日	4,137 人日	4,429 人日	4,889 人日	4,770 人日	2,936 人日
	85 人	90 人	91 人	94 人	98 人	102 人
医療型児童発達支援	49 人日	0 人日	49 人日	0 人日	49 人日	0 人日
	1 人	0 人	1 人	0 人	1 人	0 人
居宅訪問型児童発達支援	102 人日	12 人日	102 人日	12 人日	102 人日	0 人日
	2 人	3 人	2 人	6 人	2 人	0 人
放課後等デイサービス	25,832 人日	21,108 人日	31,782 人日	23,712 人日	39,039 人日	14,423 人日
	178 人	141 人	219 人	165 人	269 人	197 人
保育所等訪問支援	48 人日	84 人日	60 人日	72 人日	84 人日	64 人日
	4 人	4 人	5 人	8 人	7 人	6 人

※各年度 3 月 31 日現在、令和 5 年度は 9 月 30 日現在

※上段は年間延べ利用日数、下段は月平均利用者数

ただし、医療型児童発達支援の計画値のみ月間延べ利用日数

※「人日」＝「月間の利用人員」×「一人一月あたりの平均利用日数（利用率加味）」

資料：障がい福祉課

②障がい児相談支援

障がい児相談支援については、令和 4 年度では計画値を下回っていますが、少しずつ増加しています。

◆障がい児相談支援の計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
障がい児相談支援	231 人	174 人	269 人	179 人	313 人	191 人

※各年度 3 月 31 日現在、令和 5 年度は 9 月 30 日現在

※年間実利用者数

資料：障がい福祉課

③医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置

医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターについては、令和4年度では配置に至っておりません。

◆医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置の計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置	1人	0人	1人	0人	1人	0人

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

資料：障がい福祉課

(7)その他活動指標

①発達障がい者等に対する支援

ペアレントトレーニングやペアレントプログラム等の受講者数は令和3年度から令和4年度にかけて減少しているものの、計画値を上回って推移しています。

ペアレントメンターの人数は令和3年度以降4人となっており、計画値を上回って推移しています。

◆発達障がい者等に対する支援の計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
ペアレントトレーニングやペアレントプログラム等の受講者数	10人	16人	10人	11人	10人	4人
ペアレントメンターの人数	1人	4人	1人	4人	1人	4人
ピアサポート活動への参加人数	※	3人	※	1人	※	0人

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

※ピアサポート活動への参加人数の計画値は、ニーズに合わせて検討していくこととしていた

資料：障がい福祉課

②精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築

精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築は、関係者ごとの参加者数は計画値を上回って推移しています。一方で、協議の場における目標設定及び実施には至っていません。

◆精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築の計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
協議の場の開催回数	5回	2回	5回	4回	5回	1回
関係者ごとの参加者数	22人	36人	22人	92人	22人	21人
協議の場における目標設定及び実施回数	1回	0回	1回	0回	1回	0回

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

資料：障がい福祉課

◆精神障がい者の地域移行に向けたサービス提供

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
地域移行支援	2人	1人	2人	0人	2人	0人
うち精神	1人	1人	1人	0人	1人	0人
地域定着支援	2人	2人	2人	3人	2人	2人
うち精神	1人	1人	1人	0人	1人	2人
共同生活援助	2人	42人	2人	56人	2人	63人
うち精神	1人	9人	1人	10人	1人	13人
自立生活援助	2人	1人	2人	1人	2人	0人
うち精神	1人	1人	1人	1人	1人	0人

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

資料：障がい福祉課

③相談支援体制の充実・強化のための取組

相談支援体制の充実・強化のための取組は、訪問等による専門的な指導・助言件数は計画値をやや下回っています。

一方で、相談支援事業者の人材育成の支援件数及び相談機関との連携強化の取組の実施回数は計画値通りの実績値となっています。

◆相談支援体制の充実・強化のための取組の計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
訪問等による専門的な指導・助言件数	144 件	57 件	144 件	133 件	144 件	102 件
相談支援事業者の人材育成の支援件数	6 件	6 件	6 件	6 件	6 件	3 件
相談機関との連携強化の取組の実施回数	6 回	6 回	6 回	6 回	6 回	3 回

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

資料：障がい福祉課

④障がい福祉サービスの質を向上させるための取組

障がい福祉サービスの質を向上させるための取組は、障がい福祉サービス等に係る各種研修の活用の実績値は増加しているものの、計画値を下回って推移しています。

障害者自立支援審査支払等システムによる審査結果の共有及び指導監査結果の関係市町村との共有は実施に至っていません。

◆障がい福祉サービスの質を向上させるための取組の計画と実績

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
障がい福祉サービス等に 係る各種研修の活用	5 人	3 人	5 人	4 人	5 人	10 人
障害者自立支援審査支払 等システムによる審査結 果の共有	2 回	0 回	2 回	0 回	2 回	0 回
指導監査結果の関係市町 村との共有	1 回	0 回	1 回	0 回	1 回	0 回

※各年度3月31日現在、令和5年度は9月30日現在

資料：障がい福祉課

5. 各種アンケート調査結果

調査実施概要①

○障がい者福祉施策を進める際の参考とすることを目的に、障害者手帳所持者等を対象に実施

調 査 票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
障害者手帳所持者	2,000 件	1,030 件	51.5%

調査実施概要②

○障がい者福祉サービスを検討する際の参考とすることを目的に、市内で障がいのある人へのサービスを提供している事業所を対象に実施

調 査 票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
事業所	45 件	22 件	48.9%

(1)障がいのある人に対するアンケート調査結果

〈暮らしや日常生活等について〉

〔問3〕あなたがいっしょに住んでいるご家族はだれかをお答えください。

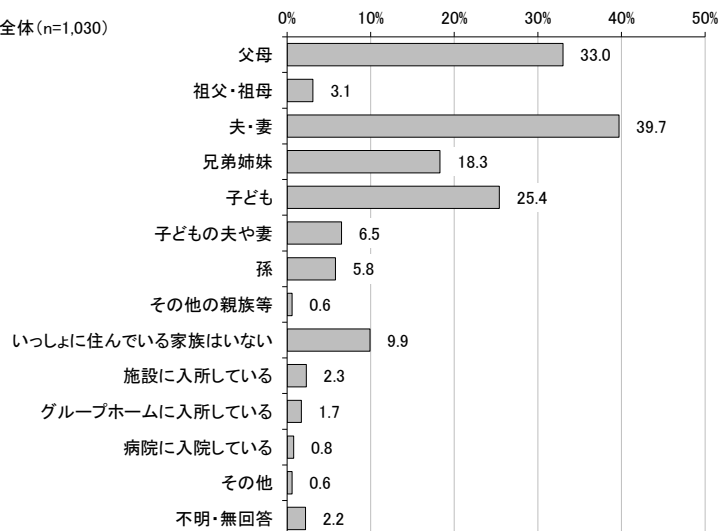
〔問34〕あなたは、今後どのように暮らしていきたいとお考えですか。

現在いっしょに住んでいる家族についてみると、「夫・妻」が 39.7%と最も多く、次いで「父母」が 33.0%となっています。今後の暮らし方についてみると、「家族の手助けを受けながら自宅で暮らしたい」が 51.9%と最も多くなっています。

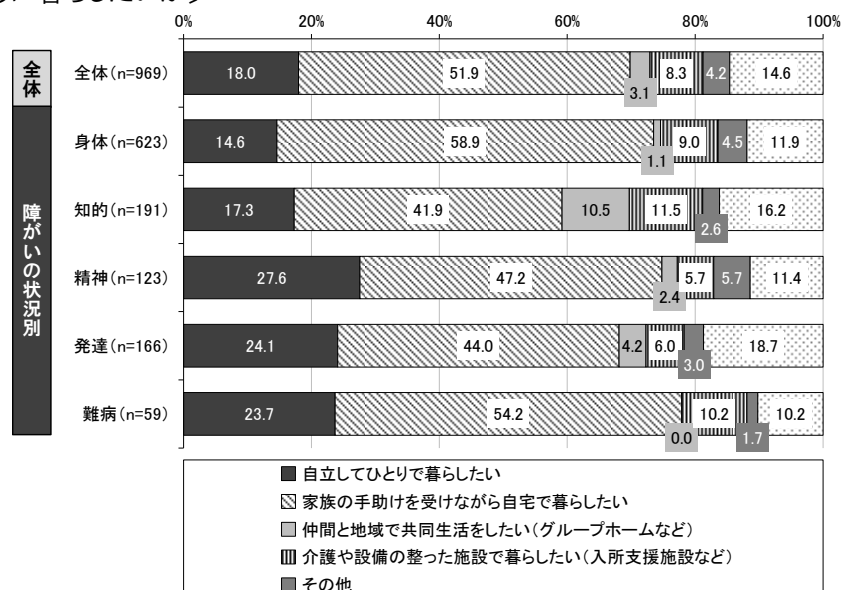
POINT

○本市に住んでいる障がいのある人は、父母や夫・妻とで暮らしている人が多く、今後の暮らしについては家族や親族等と暮らしたい意向があり、在宅で過ごすための支援や家族が高齢になっても安心して暮らせる支援が求められています。

〔だれと暮らしているか〕 全体(n=1,030)



〔今後どのように暮らしたいか〕

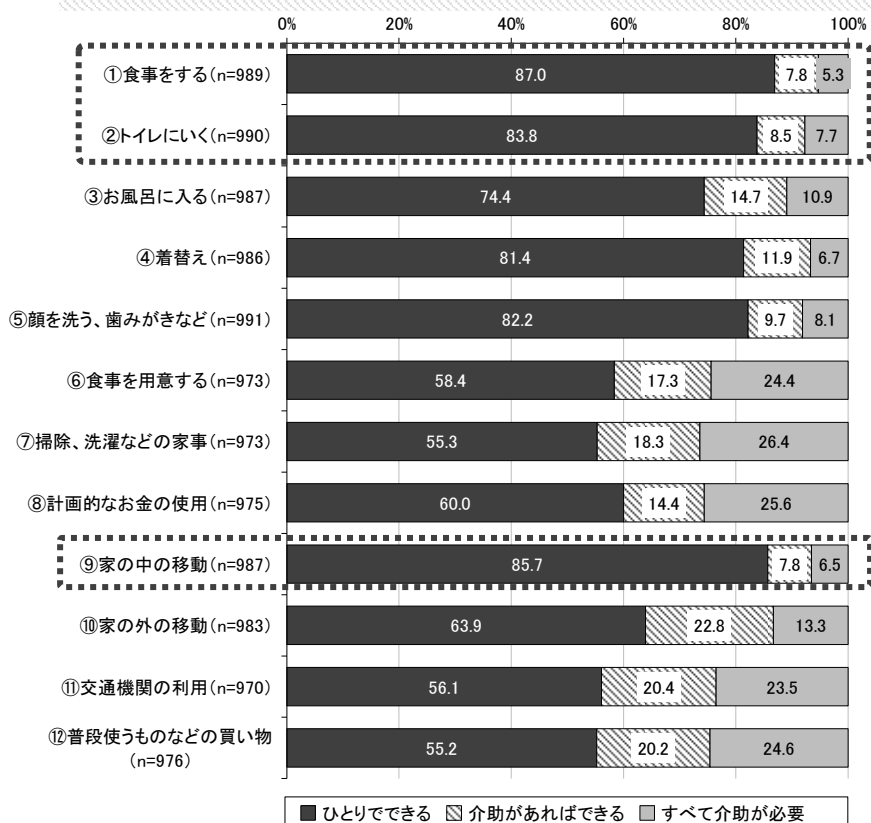


〔問9〕あなたは日常生活で、次のことをどのようにしていますか。

日常生活における生活動作についてみると、いずれの項目も「ひとりでできる」が最も多く、特に食事(87.0%)、トイレ(83.8%)、家の中の移動(85.7%)で多くなっています。一方、家の外の移動では「介助があればできる」も22.8%となっています。

POINT

○主に介助する人が、「家族」「親族」等と回答した人の介助者・支援者の年齢は70歳以上が多くなっており、国で課題となっている「8050問題(80歳の親が50歳の子をみる)」が現実的な問題となっていることがわかります。



〔介助者・支援者の年齢〕

単位: %		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
全体 (n=623)		1.9	1.0	8.8	18.8	21.5	16.9	31.1
障がい の 状 況 別	身体 (n=394)	0.5	0.5	3.6	12.9	20.8	20.8	40.9
	知的 (n=141)	1.4	0.7	12.8	28.4	31.9	12.1	12.8
	精神 (n=62)	1.6	3.2	14.5	22.6	22.6	14.5	21.0
	発達 (n=127)	2.4	1.6	14.2	33.1	26.0	10.2	12.6
	難病 (n=46)	0.0	2.2	4.3	26.1	15.2	13.0	39.1

〔問 10〕あなたが介助してもらう人(介助者)について、不安や心配に感じていることは何ですか。

介助者について困ったり、不安に思うことについてみると、「介助者の健康」が57.8%と最も多く、次いで「介助者の体力面」が31.6%、「介助者が高齢であること」が28.3%となっています。

POINT

○手帳の種別によって、困りごとや不安等に思うことに違いがでていることがわかります。特に、〔精神〕では、経済面や精神面のこと、〔難病〕では、緊急時の対応や日常でも目を離せないことに不安を思うことが多くなっています。

単位：％		介助者の健康	介助者が高齢であること	頼めわりに人が介助ない	介助者が仕事をしに	介助者が外れや旅行	介助者の休養がない	緊急時の対応
全体(n=632)		57.8	28.3	25.6	8.4	12.0	14.1	23.6
前回(n=813)		67.0	30.3	26.1	8.1	13.5	13.7	29.3
性別	男性(n=341)	56.6	29.0	26.1	7.0	10.9	12.9	23.5
	女性(n=280)	58.6	27.1	25.0	9.6	12.5	15.7	23.9
障がい の 状況 別	身体(n=377)	63.9	34.2	26.5	9.5	14.3	14.9	26.5
	知的(n=156)	54.5	21.2	32.7	9.6	10.3	18.6	27.6
	精神(n=70)	62.9	22.9	27.1	4.3	10.0	14.3	18.6
	発達(n=142)	52.8	14.8	25.4	7.7	4.2	14.8	19.7
	難病(n=51)	74.5	39.2	29.4	19.6	23.5	31.4	35.3

単位：％		介助者の経済面	介助者の精神面	介助者の体力面	相談相手がいない	その他	特にな
全体(n=632)		20.7	22.3	31.6	5.9	0.9	20.6
前回(n=813)		21.4	23.9	31.4	6.6	1.4	14.4
性別	男性(n=341)	19.4	22.0	33.4	5.6	0.6	22.0
	女性(n=280)	20.7	22.3	31.6	5.9	0.9	20.6
障がい の 状況 別	身体(n=377)	17.2	20.4	32.4	5.0	0.8	15.1
	知的(n=156)	25.0	26.3	40.4	6.4	0.6	21.2
	精神(n=70)	44.3	38.6	40.0	11.4	1.4	15.7
	発達(n=142)	21.8	23.9	35.9	4.2	0.7	27.5
	難病(n=51)	27.5	23.5	45.1	11.8	0.0	7.8

〈相談について〉

〔問 35〕あなたにとって住みよいまちをつくるためには、どのようなことが必要だとお考えですか。

住みよいまちをつくるために必要なことについてみると、「相談体制の充実」が58.8%と最も多く、次いで「手続きの簡素化」が54.5%、「情報提供の充実」が41.4%となっています。

POINT

○障がいの状況別にみると、〔身体〕〔精神〕〔発達〕では「相談体制の充実」、〔知的〕〔難病〕では「手続きの簡素化」がそれぞれ最も高くなっています。

単位：％		なんでも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実	サービスの利用の手続きの簡素化	行政からの福祉に関する情報提供の充実	保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上	参加しやすいスポーツ・文化活動の充実	いろいろなボランティア活動の育成	在宅での生活や介護がしやすいよう、保健・福祉のサービスの充実	職業訓練などの生活訓練の充実	地域とともに学べる教育・教育内容の充実	職業訓練の確保
全体(n=968)		58.8	54.5	41.4	26.8	15.2	9.4	35.1	21.1	8.9	16.5
前回(n=1,211)		55.4	58.1	39.6	24.6	16.4	10.2	35.3	19.6	7.2	16.0
性別	男性(n=516)	61.0	53.9	42.8	28.3	17.2	9.5	31.0	20.0	9.9	17.8
	女性(n=433)	56.4	55.4	41.3	26.1	12.9	9.7	39.7	22.6	8.1	15.2
障がいの状況別	身体(n=617)	58.5	54.3	42.0	23.5	11.5	9.6	40.4	20.9	4.7	8.1
	知的(n=194)	58.8	61.9	46.9	30.4	20.6	8.8	29.4	22.7	12.9	27.8
	精神(n=123)	59.3	51.2	40.7	36.6	21.1	10.6	30.1	22.0	9.8	28.5
	発達(n=170)	66.5	60.0	44.7	32.4	22.4	7.6	24.7	26.5	14.1	39.4
	難病(n=63)	61.9	68.3	38.1	23.8	14.3	6.3	47.6	31.7	0.0	14.3

単位：％		障がいの有無にかかわらず、誰もがふれあえる機会の充実	建物などの整備・改善	住宅が、配慮した生活の確保	災害や緊急時の避難誘導体制の整備	障がいの福祉理解を促すための活動の充実	その他	特になし
全体(n=968)		15.5	20.8	23.9	22.9	18.7	2.8	10.3
前回(n=1,211)		19.8	23.0	24.7	29.8	21.3	2.1	6.8
性別	男性(n=516)	16.7	20.5	23.3	21.1	19.2	2.9	10.9
	女性(n=433)	14.1	21.2	24.9	25.4	18.5	2.3	9.9
障がいの状況別	身体(n=617)	14.9	23.2	20.1	24.1	15.2	2.4	10.2
	知的(n=194)	15.5	17.5	39.7	29.4	27.3	3.1	9.8
	精神(n=123)	17.1	19.5	26.0	19.5	24.4	7.3	14.6
	発達(n=170)	18.8	18.8	34.1	22.9	31.2	3.5	8.2
	難病(n=63)	14.3	23.8	23.8	31.7	25.4	0.0	7.9

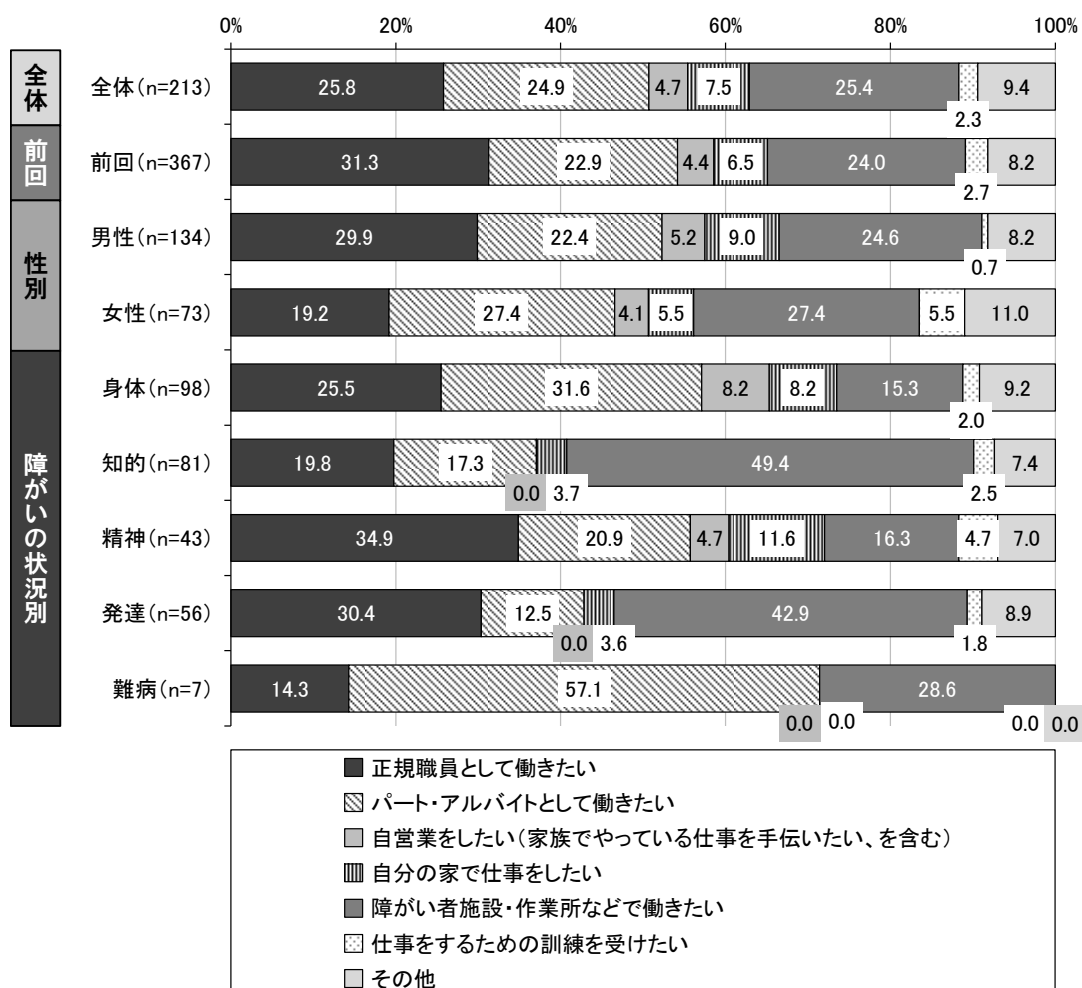
〈就労について〉

〔問 16〕今後の仕事についてどのようにお考えですか。

今後の仕事についてどのように考えているかについてみると、全体では「正規職員として働きたい」が25.8%と最も高く、次いで「障がい者施設・作業所などで働きたい」が25.4%となっています。

POINT

○障がいの状況別にみると、〔身体〕〔難病〕では「パート・アルバイトとして働きたい」、〔知的〕〔発達〕では「障がい者施設・作業所などで働きたい」、〔精神〕では「正規職員として働きたい」がそれぞれ最も高くなっています。



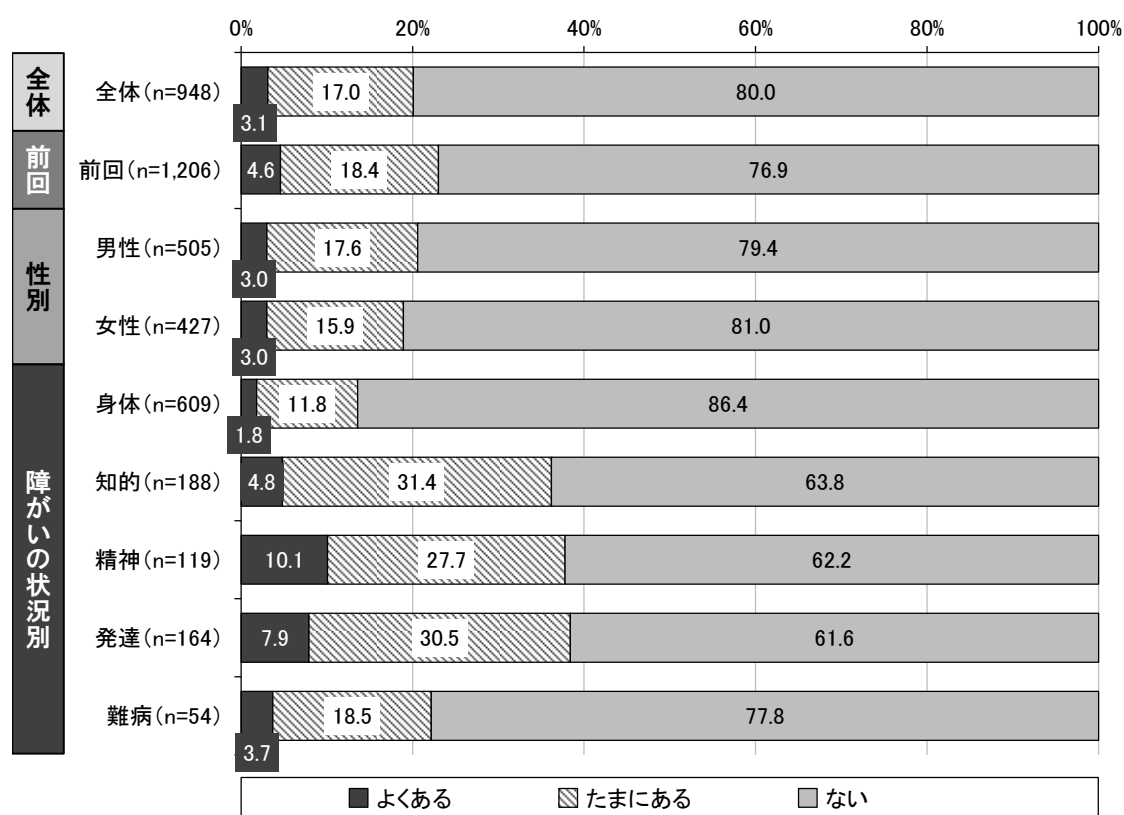
〈権利擁護について〉

〔問 27〕あなたは日常生活において、障がいがあるために差別や偏見を受けたり、嫌がらせをされたり、仲間はずれにされたと感じることはありませんか。

日常生活において、障がいがある理由で差別や偏見を受けたり、嫌がらせ等をされた経験の有無についてみると、「ない」が80.0%と最も多く、次いで「たまにある」が17.0%、「よくある」が3.1%となっています。

POINT

○〔知的〕〔精神〕〔発達〕は、「ある」と回答している人が多くっており、障害種別によって違いがでていることがわかります。



〈災害時の対応について〉

〔問 23〕火事や地震などの災害が発生したときに、あなたはどのようなことが困ると思いますか。

災害発生時に困ることについてみると、全体では「安全なところまですばやく避難できない」が44.4%と最も高く、次いで「どのように対応すべきか判断できない」が38.3%となっています。

POINT

○障がいの状況別にみると、〔身体〕〔難病〕では「安全なところまですばやく避難できない」、〔知的〕〔発達〕では「どのように対応すべきか判断できない」、〔精神〕では「どのように対応すべきか判断できない」「避難場所で、その場や人になじむことができない」がそれぞれ最も高くなっています

単位：%		何が起こっているのか把握できない	どのように対応すべきか判断できない	周りの人に介助を求めることができない	安全なところまですばやく避難できない	避難場所で、その場や人になじむことができない	避難場所で、被害状況や支援物資などの情報が入手できない	避難場所で、治療（必要な薬をもらうこと含む）を受けることが難しい	避難場所のある障がい者が生活できる環境が整っていない	その他	特に困ることはない
全体（n=960）		29.8	38.3	20.6	44.4	24.7	23.0	30.6	23.4	6.1	17.1
前回（n=1,250）		26.7	36.3	20.8	44.8	25.7	20.7	37.4	23.3	5.6	18.2
性別	男性（n=513）	31.0	39.4	19.7	40.5	26.3	24.6	27.3	21.4	4.9	20.1
	女性（n=426）	29.3	37.8	22.3	49.3	22.5	21.4	35.0	26.3	7.5	13.1
障がいの状況別	身体（n=608）	23.0	25.2	14.8	46.7	11.3	16.4	31.9	28.9	6.4	19.4
	知的（n=195）	56.4	73.3	43.1	54.9	49.2	45.1	35.4	24.6	3.6	9.2
	精神（n=123）	26.0	47.2	24.4	29.3	47.2	20.3	39.0	9.8	9.8	9.8
	発達（n=170）	48.8	68.8	35.3	46.5	52.9	40.0	30.0	18.8	5.9	7.6
	難病（n=62）	24.2	29.0	24.2	72.6	21.0	21.0	46.8	40.3	3.2	4.8

〈今後の施策について〉

〔問 56〕障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするため、どのようなことが重要だと思いますか。

障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために重要なことについてみると、全体では「近所どうしのつきあいを深めること」が 38.9%と最も高く、次いで「入所施設を充実させること」が 29.5%となっています。

POINT

○障がいの状況別にみると、〔身体〕では「近所どうしのつきあいを深めること」、〔知的〕〔発達〕では「入所施設を充実させること」、〔精神〕では「わからない」、〔難病〕では「生活介護などの通所施設を充実させること」がそれぞれ最も高くなっています。

単位：%		近所どうしのつきあいを深めること	障がいのある人どうしの交流を深めること	障がいのある人が民生委員・児童委員との関わりを深めること	民生委員・児童委員などの活動を充実させること	ボランティアなどを育成して、活動してもらうこと	生活介護などの通所施設を充実させること	訪問系のサービスを充実させること	短期入所（ショートステイ）施設を充実させること	グループホームを充実させること	入所施設を充実させること	その他	わからない
全体（n=946）		38.9	21.5	21.7		14.3	26.3	27.4	21.9	17.7	29.5	3.3	20.6
前回（n=1,184）		46.5	23.2		21.5	16.5	29.0	27.1	23.4	17.1	30.0	2.2	16.3
性別	男性（n=509）	39.9	21.2	21.4		13.8	24.4	24.8	19.3	18.5	26.7	2.9	21.6
	女性（n=418）	38.3	22.0	21.8		15.6	29.2	30.4	25.8	17.5	33.3	3.6	19.1
障がいの状況別	身体（n=598）	44.0	16.9	22.1		14.2	25.6	30.1	23.9	14.5	30.3	2.5	19.2
	知的（n=193）	27.5	28.0	19.7		14.0	33.7	23.3	26.9	36.3	40.4	3.1	19.7
	精神（n=124）	26.6	24.2	16.9		12.1	20.2	20.2	10.5	13.7	17.7	8.1	29.0
	発達（n=170）	31.2	31.2	22.4		12.9	30.0	24.7	21.8	27.6	34.1	4.7	22.4
	難病（n=60）	36.7	25.0	30.0		13.3	40.0	38.3	35.0	16.7	38.3	1.7	13.3

(2)障がい福祉サービス事業所に対するアンケート調査

〈事業運営の課題について〉

〔問1③〕円滑な事業運営を進めていく上で、問題を感じることはありますか。

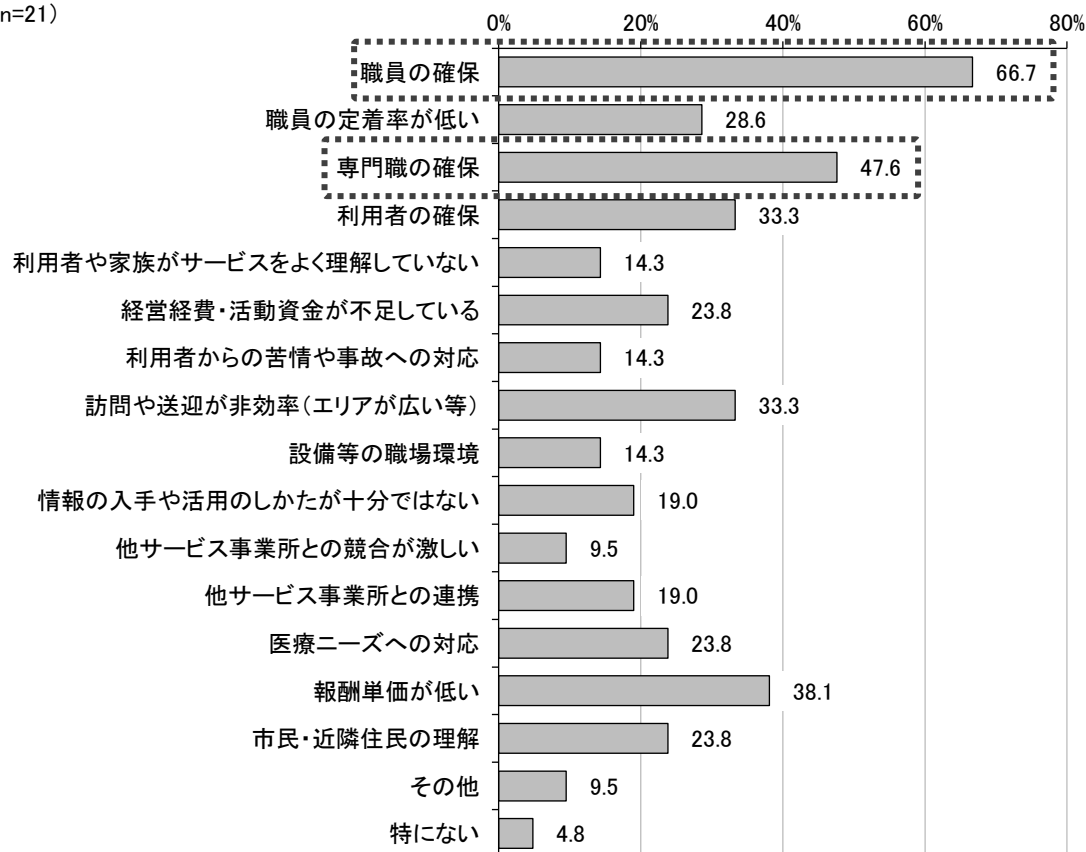
円滑な事業運営を進めていく上での問題についてみると、「職員の確保」が66.7%と最も高く、次いで「専門職の確保」が47.6%となっています。

POINT

○サービスのニーズに対応できる職員・専門職の確保が問題となっており、今後は、障がいのある人のニーズと事業所の状況を把握しながら、サービスを提供する必要があります。

◆問1③ 円滑な事業運営を進めていく上での問題

全体(n=21)



〈人材の確保・定着について〉

〔問2①〕貴事業所における人材の確保について、おおむねどのような状況ですか。

〔問2②〕貴事業所における職員の定着について、おおむねどのような状況ですか。

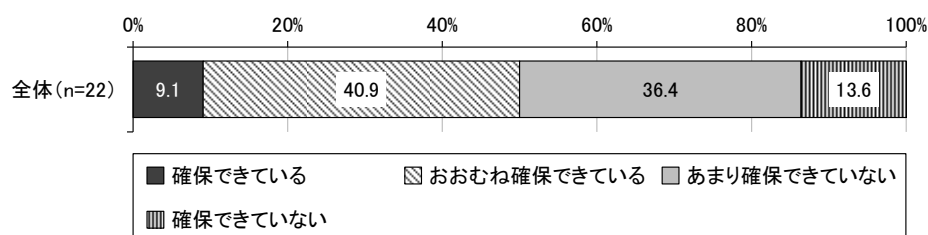
〔問2③〕貴事業所における人材の確保に向けての課題はどのようなことですか

人材の確保についてみると、「おおむね確保できている」が40.9%と最も高く、次いで「あまり確保できていない」が36.4%、「確保できていない」が13.6%となっています。

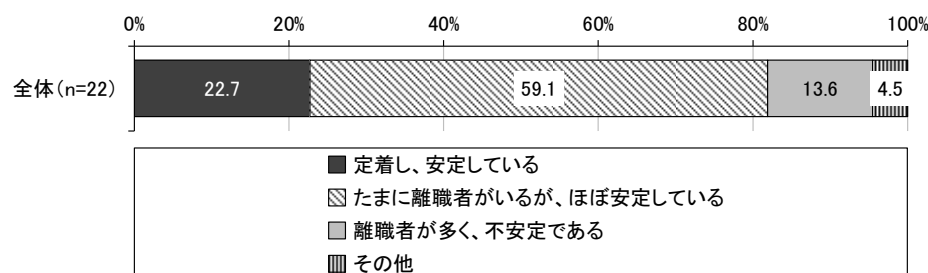
職員の定着についてみると、「たまに離職者がいるが、ほぼ安定している」が59.1%と最も高く、次いで「定着し、安定している」が22.7%、「離職者が多く、不安定である」が13.6%となっています。

人材の確保に向けての課題についてみると、「採用に向けた採用戦略・方針が明確になっていない」が45.5%と最も高く、次いで「求職者とのマッチングが難しい」が31.8%、「処遇改善や働きやすい環境の整備が十分にできていない」が27.3%となっています。

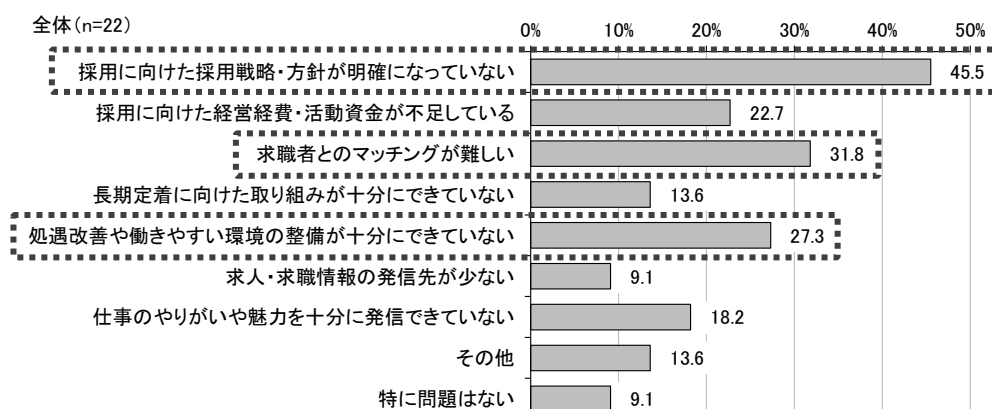
◆問2① 人材の確保の状況



◆問2② 職員の定着の状況



◆問2③ 人材の確保に向けての課題



6. 課題のまとめ

(1)障害者手帳所持者の傾向

身体障害者手帳は横ばいですが、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳は増加傾向にあり、今後も動向を注意する必要があります。

またアンケート調査の結果からみても、障がいのある人とその家族の高齢化が進んでいます。障がいのある人の介助者の多くはその家族であり、介助者が抱える不安として、健康状態や緊急時の対応、精神的な負担をあげる人が多くなっています。

障がいのある人が希望する生活が、住み慣れた地域で続けられるように、支援体制を整える必要があります。



〈課題のポイント〉

- 知的障がい・精神障がいのを取得される人が増加傾向
- 介護者は障害者手帳所持者の同居の家族が多く、介護者の高齢化も問題となっている
- 介護者に何かあった時に、在宅生活を継続できるか不安に思う人が多い

(2)理解促進の必要性

障がいのある人の理解促進について、アンケート調査の結果では、障がいのある人に対する理解が進んだと感じている人は3割で、半数以上の人はこちらともいえないとなっています。一方、障がいのある人に関わっている事業所からみた理解促進については、少しずつではあるが進んでいるといった意見もありました。

また、障がいがあるために差別や偏見等を受けたと感じた答えた人のうち、地域の行事、集まり、お店等の対応でそのように感じる人が多くなっています。

今後は、学校教育やイベント等、あらゆる機会をとらえて障がいのある人となない人の交流促進、幼少期からの理解啓発、地域の行事に参加しやすい環境づくりを図っていく必要があります。



〈課題のポイント〉

- 差別や偏見等について、障がいのある人に対する理解が促進している部分もあれば、地域の行事やお店等の対応で差別や偏見等を受けたと感じる人が多くなっている
- 学校教育と連携し、幼少期から交流ができる環境をつくることや地域の行事で参加しやすい環境づくり等が求められている

(3)緊急時の対応

アンケート調査の結果では、避難場所を知っている人が6割を超えていますが、安全なところまで素早く避難できないと回答している人が4割となっています。災害時に支援してくれる人として家族をあげる人がほとんどであり、災害が起きた際に家族がいなくても避難できるよう、避難行動要支援者名簿への登録をはじめ、地域で支えあう取組を充実する必要性が高まっています。



〈課題のポイント〉

- 安全な場所まで素早く避難できない人が約4割、家族の助けを頼りにしている人が多い
- 地域での見守りの重要性が高まる中、日ごろからの地域のつながりの重要性が高まっている

(4)障がい福祉サービスの提供体制

事業所を対象としたアンケート調査の結果では、円滑な事業運営を進めていく上で、職員や専門職の確保を課題として考える事業所が多くみられます。人材の確保が十分にできていないという事業所が約5割と、事業所における人材が不足しており、障がい福祉サービスを提供する上で大きな課題となっています。

本市単独で提供が困難な障がい福祉サービスもあり、今後は滋賀県、湖南圏域の3市と連携して、障がいのある人のニーズに対応する必要があります。そのため、障がい福祉サービスのニーズを的確に捉え、需要と供給のバランスを保つための協議を進める必要があります。



〈課題のポイント〉

- 障がい福祉サービス事業所の人材不足が課題となっている
- 障がいのある人のニーズを捉えた障がい福祉サービスの提供体制の強化が求められている